

令和6年度 第2回学校運営協議会（記録）

令和6年度第2回学校運営協議会を、令和6年12月9日（月）10時00分より、6名の委員の出席のもと開催しました。

最初に学校見学を行いました。幼稚部ではALTとの「英語あそび」を参観し、英語の曲に合わせて、マラカスや鈴などの楽器を鳴らして演奏している幼児と一緒に、委員の方々も鈴などを手に演奏しました。始めは少し緊張した様子の子どもたちでしたが、委員の方々と一緒に演奏をするうちに、とても楽しそうな笑顔を見せていました。

その他、タブレット端末を使用しながら学習している様子を参観したり、子どもたちに直接声をかけたり、教室や廊下の掲示物に目を向けたりして、小学部から高等部までの授業も参観しました。

教室や廊下の掲示板、各学部のホールなど、校内のあちこちにクリスマスの装飾が施されている様子を見て、委員の方々は手に触れてみたり、顔を近づけたりして、ひとつひとつ、興味深く参観していました。

ひとおり、学校の様子を参観した後、委員の方から、現在の在籍数や実態別の学習の状況などについての質問や、「子どもたちが、楽しそうに学習している様子を参観できてよかったです。」などと感想をいただきました。

次に、教頭より「第72回文化祭」及び、現在までの「地域との連携」について報告をしました。

今年度の学校行事は、隣接している北海道立子ども総合医療・療育センター（以下、コドモックル）と連携のもと、基本的な感染症対策を実施しながら、行事に参加するご家庭の人数制限を解除して実施することができました。また、Microsoft foamsを使って行事参加者の名前や人数を集約したりするなど、新しい試みも取り入れ、学校全体が、少しずつコロナ禍前の状態に戻ってきたことを報告しました。

また、外部機関の出前授業や道外の動物園、水族館とのオンラインでの遠隔授業等への参加を報告した後、次年度より本格的に実施予定である、地域の方との「連合町内会と連携した防災訓練」についてや、「学校評価」についての報告も併せて行いました。



「地域との連携」や「防災」についての意見交換では、「今後、感染症がなくなるわけではないため、コドモックルと連携をしながら慎重に進めていく必要があるのではないか。」「コロナ禍で学校行事に地域の方々が参加する機会が途絶えていたため、まずは地域の方々と本校の教職員とが一緒に取り組めることを計画・実施し、地域の方々に本校のことを知ってもらうことが良いのではないか。」などの意見が出されました。

防災に関しては、「コドモックルに入院し、本校に在籍する幼児児童生徒は短期間で入れ替わるので、コドモックルと学校の連絡系統の確認をしっかりとすべきである。」「学校として、防災に関する用具等をどこまで準備すべきかを明確にする。」「万が一、災害が起きた場合には、子どもたちを安心させて避難させていくことが重要である。」など、活発な意見交換が行われました。

最後に、校長より、本校はコドモックルの前身である北海道立札幌肢体不自由児総合療育センターの時代から、学校行事に地域の方々が参加するなど、積極的に連携をしていたが、コロナ禍でいろいろなことが途切れてしまっているため、今後、再構築していく必要がある。本校の体育館が地域の避難所になっていることなどから、まずは防災に関するることを一緒に取り組んでいただきたい。地域の方が気軽に寄ってくれるような学校を目指すため、今後もいろいろご意見をいただきたいと、説明しました。

次回は、2月に開催予定です。

(主幹教諭 白木宣子)